



杉浦 奈津子さん

(シャフルボード)

入会八カ月後の世界大会参加で三勝。
本場で勝てたことが自信になりました

photo—尾崎 照夫



ディスクはイエローとブラックが各4つ

戦後まもなくで、国際基督教大学の宣教師が校内にコートをつくったのが始まりのようだが、普及するまでには至らなかった。そんなシャフルボードを生涯スポーツとして横浜市が推奨、市制一〇〇年を記念して横浜市都筑区の葛ヶ谷

公園内に国内最大、二二面の専用コートを完備。一九八八年と一九九九年に国際大会が開催された。国際大会開催の年、一九八八年には「横浜シャフルボード協会」の前身となるクラブが結成された。以来、会員たちの国際大会への参加など活発な活動が続けられ、協会は今年二〇周年を迎える。現在は会員は八〇名を数え、毎週定期的な練習日に集まり汗を流す。



小雨まじりの日でも集まったメンバー

統一された。日本への上陸は、

公園内に国内最大、二二面の専用コートを完備。一九八八年と一九九九年に国際大会が開催された。

MEMO: 「シャフルボード」は、幅1.8m、長さ12mのコートで直径15cmのディスクを、長い棒状のキューを使って二人のプレイヤーがコート上の得点エリアに向かって押し出し、ディスクが入ったエリアの得点を競うスポーツ。対戦型のスポーツで、相手のディスクを自分のディスクによって跳ね飛ばすなど、さまざまな「かけひき」もある頭脳ゲームでもある。ゲーム時間はほぼ1時間ほど。フレームゲームとポイントゲームがあるが、日本では通常フレームゲームが行われている。

ニュースポーツ・シャフルボードをご存知だろうか。ニューとはいいが、その起源は一三世紀のイングランドと遡る。当初はテーブルの上で銀貨を押し出すゲームだったとか。やがてクロケット・ローンボーリング・カーリングなどの要素が取り入れられ、一八七〇年にはイギリス・オーストラリア間を航行する定期船でのデッキゲームとして楽しめるようになった。そして世界の海を歩き交う豪華客船上でのスポーツとして浸透していった。

船旅でこのゲームに出会ったアメリカ人のホテルオーナーによって陸上でも行われるスポーツとしてスタート。一九三一年、アメリカでナショナル・シャフルボード協会が設立され、ルール、コート、用具が



ディスクとキュー

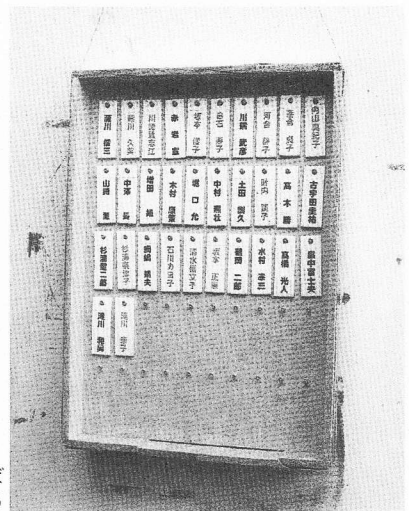


スタート前



名札

会員の手作り。名札を掛ければ
本日の出席者数もひと目で確認できる



構える

ヤフボード協会が設立され、ボランティア指導員の育成、滑るコート、滑るディスクの開発もテーマに掲げられた。もちろん杉浦さんもご主人とともに参加。講習会の講師のひとりとして指導するなど、杉浦さんのシャフルボードでの活動は広まるばかり。

火・木・土曜日の練習日・隔週日曜日には試合が行われる。コートの清掃や整備などを参加者全員でこなし、手づくりの出席札やそれをかけるボード、練習日には公平を期すためにトランプで対戦相手を決め

るなど、永い社会生活の経験者たちならではの便利でキメ細かなルールも定められている。

「ここは、ご夫妻で参加されておられる方も多く、みなさんといつも和気あいあいと過ごせるのが何より楽しいですね。練習のある日は、朝一〇時からお弁当持参で、午後三時ころまでゲーム漬けです。暑い日はコートの外の本陰でのランチももうひとつの楽しみです」と杉浦さん。

専用コートの側の緑濃い雑木林の丘は会員の皆さんの憩いの場所でもあるようだ。大人たちが静

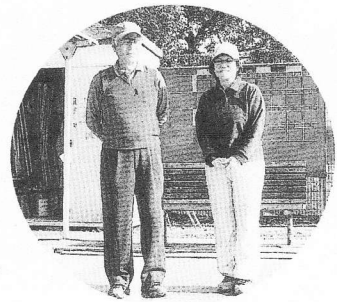
かな闘志を燃やすにふさわしいスポーツ、シャフルボード。五九歳、八四歳という横浜シャフルボード協会メンバーのシャフルボード歴は二〇年、一〇年という人も少なくない。その魅力は奥深く広いようだ。



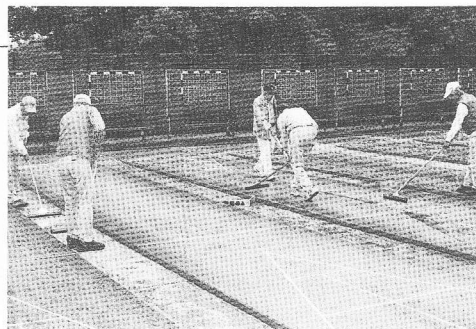
二〇〇六年懇親会
競技会で一位



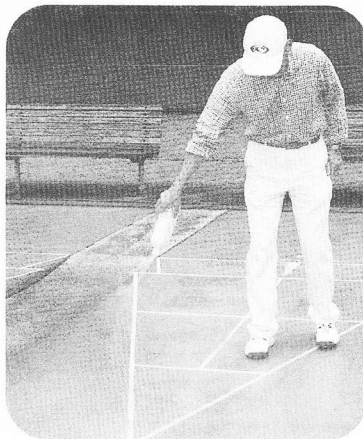
2002年11月アメリカで開催された国際大会に参加。
ナショナル・シャフルボード協会会長と



A・Bの2クラスに分かれてのトーナメントで、
A・Bそれぞれを杉浦さんご夫妻で勝ち取る



始まる前に揃ってコート整備

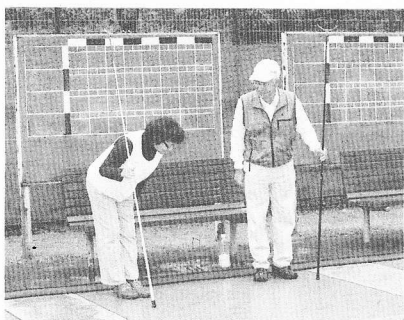


ディスクの滑りをよくするために
ガラスビーズをまく

九年、ご主人・健二郎さんとともに参加した中国旅行ツアーでのこと。同じツアー参加者だったシャフルボード協会のメンバーで現会長の綱嶋さんに勧められたからだった。帰国後ご夫妻でさっそく入会。

「はじめは基本をなぞるだけで精いっぱい、ゲームを楽しめるところまではいきませんでしたが、頭を使うスポーツですので、やり続けることで、面白さがわかってきました。本当に楽しくなったのは、入会して八カ月後の二〇〇〇年八月にアメリカで行われた国際大会への初参加で、三勝できただけですね。本場のアメリカでも勝てるんだ、と自信がつかました」と杉浦さん。

その後もめきめきと腕を上げ、



対戦前にはご挨拶。杉浦さんご夫妻

トランプで対戦相手を決める



思い思いに自主トレーニング

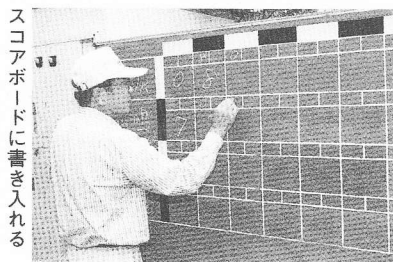
いった杉浦さん。もともとバレーボール、陸上、走り高跳び、テニスなどのスポーツ歴をもつというスポーツウーマン。「スポーツ上達のコツというのは、これまでやってきた動きの激しいものと、動きは激しくないシャフルボードでもそんなに変わらないですね」と、今やすっかりこれ一筋のシャフルボード・フリークに変身。

一日トーナメントでは準優勝、優勝を何度も経験。二組に分かれてのトーナメントではご主人の健二郎さんとともに優勝したこともあるという実力派だ。

そんな実力派メンバー有志五〇名が参加して二〇〇七年二月には、シャフルボードの中老年へのさらなる普及活動のためにNPO法人横浜シ



NPO法人横浜シャフルボード協会
会長・薩川さんご夫妻も参戦（左）



スコアボードに書き入れる